

マイキープラットフォームによる地域活性化方策検討会
(第1回) 議事概要

1 日 時

平成28年2月12日(金) 16:00～17:30

2 場 所

中央合同庁舎2号館7階 省議室

3 出席者

(1) 高市総務大臣

(2) 構成員

太田座長、赤間構成員、市瀬構成員(代理 長谷川氏)、伊藤構成員、大高構成員、岡田構成員、小尾構成員、高橋構成員、東條構成員(代理 志摩氏)、原田構成員、廣川構成員、吉田構成員

(3) 関係省庁等

向井内閣官房内閣審議官(代理 阿部氏)、藪内経済産業省商業課長、福浦地方公共団体情報システム機構情報課支援戦略部長、猿渡大臣官房審議官

4 議事

(1) マイキープラットフォーム概要

(2) 構成員からのプレゼンテーション

(3) 意見交換

5 議事概要

【高市総務大臣】

- 私はかねがねマイキープラットフォームというものを活用した地域活性化策、これを組み立てられないかと考えていた。特に各地の商店街の代表の皆様など、現場で活躍をいただいている皆様にも構成員への就任をお願いした次第。
- 今年の1月からマイナンバーカードの発行・交付、マイナンバーの利用が始まった。マイナンバーカードは、法定された分野でしか使えないマイナンバーの部分と、それ以外にマイキーと呼ばれる部分、つまり、ICチップの空き領域や公的個人認証、これが搭載されているので、ここを民間でも自治体でもご活用いただけるということになっている。ぜひマイキーというものをしっかりと活用しながら、地域の活性化につなげていくための方策をご検討いただきたい。
- 私のほうからお願いしたい検討項目を3つ申し上げる。1つは住民視点での行政サービス再編と業務改革、2つ目は新たな商店街振興策を軸とした地域経済活性化、3つ目に多様なサービスイノベーションによる地域経済好循環拡大への期待ということ。
- この検討会でのご議論の結果を受け、6月の骨太の方針や成長戦略にも反映して、次の年度の概算要求にもつなげてまいりたいと思っている。非常に重要なご議論をいただくことになるが、どうかよろしくをお願いしたい。

【太田座長】

- 現場の声というのをできるだけ聞かせていただき、地域の活性化につながるようなもの

にしていきたいと思っている。皆様の声を生かした国民のインフラに育っていくような、出発点になる検討をしたいと思っている。

(事務局より、資料 2-1、資料 2-2 の説明)

(廣川構成員より、資料 3-1 の説明)

【廣川構成員】

- 地方公共団体・地域における利用者 ID カード等利用の現状についてだが、住民の声には、サービスごとに別々のカードや ID が発行され、持ち歩きが非常に手間で見つけにくいというものがある。地方公共団体の側においては、すでに発行した様々なカードの集約やシステムの経費等が課題となっているほか、サービスの高度化をしたいという希望がある。
- 現状はサービスごとに異なる ID であるが、マイキープラットフォームを導入し、(利用者)にマイキー ID を登録していただければ、共通 ID となるのが大きなポイント。
- 導入の効果として、住民(国民)の側は、カードが 1 枚に集約されるほか、決済サービスの付与、広域でのシームレスなサービス利用、ボランティアポイント等の地域コミュニティでの活用などにより、まちの活性化などにつながっていくと思う。
- 地方公共団体の側としては、カードの発行経費の節減、システムの刷新による経費節減及び業務改革の実現、広域連携による広域での施設の再配置の検討の契機にもなるのではないかと考えている。
- マイキーを活用するためのポイントとして、まず何より大事なものは豊富な利用メニュー。サービスメニューが豊富でなければ、持って出るのを忘れてしまうというようなことになってしまう。

(岡田構成員より、資料 3-2 の説明)

【岡田構成員】

- 地域商店街のポイントカードの取り組みは、横ばい。多くのところがコスト対効果がわりに合わないというのが最大の原因かと思われる。
- 本来、ポイントサービスというのはポイントをお客に提供し、かわりにデータをもらう。そのデータを活用して、お客にメリットのあるようなサービスや情報提供をするという循環が望ましいが、ほとんどできていない。
- マイキープラットフォームを利用して、マイナンバーカードを地域商店街ポイントカードの共通デバイスにすれば、商店街はカード発行代が不要になる。また、クラウド型サービスを活用することになるので、管理システム費用もダウンするのではないか。そういう意味では、絶大なコスト効果というのが期待できるのではと考える。
- 地域のポイントカード活用事例として、シニアの見守りサービスと連動させたものや、地域の企業であれば他の企業でも利用できるものなどがある。また、当社では民間ポイントサービスは、毎年約 3,600 億円が失効していると試算しており、これを有効活用することにより、経済活性化につながると考えている。

(以下、自由討議)

【吉田構成員】

- 商店街の商店の方々も、家族でやっていたり、お年寄りのご夫婦でやったりというような形で経営されている方が多い。そういう方々にこのマイキープラットフォームについて

よく知ってもらうことが非常に大事。また、マイナンバーカードを持ち歩いていただけるよう、有効性や魅力を消費者の側にはきちんとお伝えいただくということが大事。

【伊藤構成員】

- うちの商店街では、もう既にクラウドを活用してICカードのポイント事業を展開している。ICカードも約2万人の方の登録があった。これを活用するという点については、それなりの商店街の力がないとできない。
- 商店街で対応するという点については、いろんな形でもって行政の支援や何かがないとできない。あと、商店街の人たちは複雑なものは非常に苦手、簡素化しないと導入というのは非常に難しいが、プレーメン通り商店街では、カードの読み取り機能を搭載した市販のタブレットにソフトウェアを乗せて対応している。マイナンバーカードの活用も、これで対応できると考えている。

【事務局】

- マイナンバーカードについては、多様なメリットをつけ、しかも交付無料というご案内のところでPRをしているところ。2月9日時点では、推計も含むが800万件以上の申請を受けている。3月までには1,000万件に達するのではと考えている。予算としても補正予算で3,000万枚を受けても出せるように準備をしたところ。
- 一番のわかりやすいメリットというのがコンビニ交付サービスとなるが、これも昨年までは100団体で2,000万人ほどが受けられていたものが3月までには4,000万人が受けられるようになる。
- 前提としての普及、また商店街でも使えるということが一つのメリットという形になって、これが相乗効果でたくさんの方にお持ちをいただき、安心して使っていただけるように進めていきたい。

【太田座長】

カードの普及には多分、2つの段階があって、1つは発行、2番目は日々持っていたかどうかという、吉田構成員からご指摘いただいたように、発行されても、家の金庫にしまっておかれたのでは活用できないので、その2つの視点から検討してまいりたい。

【大高構成員】

- マイナンバーカードを多目的に使うことの必要な条件として、マイナンバーカードにあったリーダーライターの普及の問題がある。また、マイナンバーカードの空き領域にアプリケーションを入れることができるのは自治体ではないかと思う。全国の自治体で体制の整備も含めて考えないといけないというようなことが現実問題としてあろうかと思う。
- マイナンバーカードを利活用できる環境整備に対して、国のほうではどういう施策を考えてどういう対応をしようとしているかというのを条件としてご説明いただけるとありがたい。

【猿渡審議官】

- リーダーライターについては、低価格化してきている。また、カードのタイプにはいくつかあるが、どれにも対応できるリーダーライターが出ている。

【太田座長】

- インフラ的なものに関しては、施策も含めて、ある程度、工程表のようなものをお示ししなければ、例えばシステム更新のタイミングを逃してしまう、そもそも計画すらできないということがあると思う。短期の検討ではあるが、しっかり出していきたい。
- 住民視点でサービスをつくっていくチャンスだと思うので、結論というよりは方向性や考え方のようなものを出していけたらなと思っている。

【小尾構成員】

- マイキープラットフォームを検討するに当たって、やはり少し技術的なところや、マイキーIDを連携用IDとして位置づけるかどうかについても考えていくべき。
- 広域で使うとなると、便利な一方で、プライバシーの心配をする方というのが出てくる可能性があるため、これについても配慮が必要。
- また、もうマイナンバーカード自体は交付がはじまり、カードをなくした場合の対応など様々な仕組みがある。プラットフォームの構築に当たっては、すでにある仕組みへの影響が抑えられるよう、その仕組みにうまく乗る形にすることも必要ではないか。

【猿渡審議官】

- マイナンバー制度におけるマイナンバーとマイキープラットフォームは全くの無関係。マイキーIDは希望する者が自ら作り、本人が変えたければ変えていただいてもいいというような形でできないものだろうかということで検討させていただければと思っている。
- マイキープラットフォームはあくまでも既存の図書館の番号とか商店のポイントカードの番号との対応づけをするだけで、それ以上のものは持たない。図書館の閲覧履歴などは、おそらく図書館のシステムの中に運用はされていると思うが、これについてマイキープラットフォームは一切、手を触れることはない。
- 利用者がオンラインでご登録ができる比較的簡単なシステムができないかと。ただ、書き込むときに市区町村にあまり負担をかけないような形が必要だということ。

【高橋構成員】

- マイキープラットフォームができると、図書館、スポーツ施設、文化施設等の利用のみならず、これらの施設が実施するイベントなどに参加する際に、一々名前や住所を書かなくても済むということになる。また、自治体からすると、利用者の利用頻度や、年齢層がわかるというだけでも非常に大きな効果はあると思っている。
- ぜひ地域と密接なつながりを持って、運転免許証のように、大事なカードだがふだん持ち歩くというものになればいい。

【原田構成員】

- スポーツ観光等を通じて、公共施設を活用した観光振興と地域振興を合わせて図りたいと考えており、施設利用手続きが全国で共通化される取組には非常に期待をしている。
- ただ、住民からの予約を優先して受け付ける公共施設が多く、どこの市町村に住んでいるかという情報はどうしても必要。マイキーのテーブルに居住自治体のコードだけでも追加できれば非常にありがたい。

【東條構成員代理（志摩氏）】

昨年来、ずっとマイナンバーの普及啓発ということで、説明会をやってきたが、そんな大事なカードは怖くて持ち歩けない、ということがどうしても多い。行政のサービスだけでは

限られるので、民間のサービスも含めて何かインセンティブをつけられればと思う。

【中小企業庁 藪内商業課長】

- 商店街は、最近では地域のコミュニティのインフラみたいなのところもあって、お年寄りの見守り機能を持った商店街独自のポイントカードシステムというのを導入しているところもある。マイキープラットフォームでお年寄りの見守り機能みたいなものを全国的にできるようになれば、それはそれでカードとしての持ち歩きというのもやりやすくなるのではと考えている。

【太田座長】

事務局のほうから説明のあった件は、ぜひいろいろご意見やご質問をいただければと思う。マイキーIDも、システムについても、ルールや費用面含めて、しっかり詰めていきたいと思っている。

以上